



第1回 異世代間交流「グラン・チャ・プロジェクト」にて

高齢者と青少年が繋がる 豊かな社会へ



大阪YMCA
 高齢者事業
 責任者
 しげのぶ なおと
重信 直人

一人ひとりを大切にしたいと思うとき、地球に生きている一人ひとりが違うこと、そして、お互いに支えあったり、助け合ったりしながら生きていることに気づかされます。人生を豊かに、大切に、皆と共に生きていくためには、自分ができることは何かを考え、それを実行していくことが大切になります。

日本の高齢化は急速に進んでおり、既に総人口の4人に1人が65歳以上の高齢者という時代に入っています。介護を必要とする高齢者の人口も急増しています。高齢期において身の回りの自立が難しくなったときに、安心して介護を受けることができ、個人の尊厳を守り、その人らしく生活しつづけることのできる支援体制を地域に作る事が急務です。地域で多くの高齢者の方々とお話しする中で、「長生きしたい」というよりは、むしろ「生きている内は元気でいたい」と思っておられる方が多いことを感じます。現在、日本の平均寿命は男性が80.8歳、女性は87.0歳です。しかしながら、日常生活に支障のない自立した生活を送れることを示す健康寿命は、男性が71.2歳、女性は74.2歳となっています。つまり、男性でおよそ9年、女性では13年自立した生活が阻害され、介護が必要となる期間があるということです。

豊かな人生を送るために、自分のしたいことを自分で選び、自分でできる体力を持っていることは大切なことです。そして、何にでもチャレンジして精神を若く保つことは、高齢者の心とからだの健康を維持する秘訣です。実際、65歳以上の人口に占める寝たきりの方の割合は全国平均で5%程度ですが、高齢者の就労や活動実績の高い地域では、その割合が著しく低いという統計も出ています。そうした地域の共通点は、高齢者の「自分の健康は自分で守る」という意識が高いことだといえます。

大阪YMCAの高齢者への取り組みの「第一ステージ」では、健康を維持し、いつまでも自立した生活を送るための支援として、2006年より大阪府福祉部高齢介護室と共に府下市町村において「介護予防事業」を推進してきました。そこでは、①高齢者相互または他の年代との社会的関りを促進すること、②包括的な健康運動プログラムを通して高齢者の自立生活の維持を援助すること、③高齢者に意味のあるプロ

ジェクトとリーダーシップの役割を担うボランティア活動の機会を提供することを目的としてきました。この中では、高齢者の心に潜んでいる「今さら」や「もう無理」などの消極的な気持ちを、「まだまだできる」という積極的な気持ちへと変化させ、日常的に運動を継続して行うための動機付けとライフスタイルの変容を促すことを重要としてきました。私たちは介護予防の取り組みの中で、高齢者が積極的に人生デザインを描くことのできるよう、プログラム内容や人間関係で戸惑いを感じられないことがないように、開かれた雰囲気、安全性、楽しく継続できることの配慮を大切に、この取り組みが一層広がることを願う「第一ステージ」に取り組んできました。

今後、「第二ステージ」として、高齢社会の深化による世代間の経済的負担格差、地域や職場での役割や立場等の変化が生まれる中で、多くの機関、団体や個人が協力し社会を支えることができる仕組みをつくるための努力をしなければなりません。それは世代間でも同様で、調和のあるつながりを強めていくことができるように、そのつながりづくりに青少年が積極的に参加し、その絆を強めていくことができる機会を創出する必要があります。また、高齢者が長年の生活から培った豊かな知恵や多様な経験は、社会にとっても非常に有益であるため、その知恵や経験を活かし、青少年を育てる役割を担う場に繋ぐことも大切です。

ところで、私たちの地域創成の取り組みは海外にも広がっています。

今年5月に台湾の台中市を会場として行ったYMCA国際シンポジウム「地域包括ケアシステムを考える」には、上海、香港、釜山、仁川、台北、台中、台南、南投、シンガポール、メルボルンの各都市から700名を超える参加者が集い、自助、互助、共助の重要性が確認され、今後、国や地域は異なっても同じ高齢化の課題を抱える方々と共に社会に働きかけることが確認されました。

私たちの取り組みは着実に広がっています。

これからも共に一人ひとりの大切な人生をサポートし、高齢社会の抱える課題の解決に多くの人々を巻き込みながら挑戦していきたいと決意しています。

大阪YMCAの使命

- 大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。
- ボランティア精神を幅広く、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。

- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

第1回 異世代間交流「グラン・チャ・プロジェクト」 ～高校生とシニアの交流を通して「健康」「平和」「幸せ」を考える～

おおほし まさみ
大阪YMCAエイジングセンター 事業長 大橋 昌美

2050年には100歳以上の高齢者が68万人になると言われています。そのような中、活力ある社会を持続させるために、元気な高齢者を増やすことと同時に高齢者を支える世代の育成が急務とされています。そこで今回、朝日新聞厚生文化事業団と大阪YMCAの共催で、知識や経験豊富な高齢者を、若者を育む場に繋ぐことと共に、高校生が高齢社会の抱える課題を知り、これからの自身の健康づくりと高齢社会での役割を見つけることを目的とした「グラン・チャ・プロジェクト」を紀泉わいわい村で実施しました。

竹の伐採、トコロテンづくり、石臼を使った団子づくり、畑での夏野菜収穫等、多彩な里山生活体験だけでなく、高齢者の方々の青少年期を振り返った貴重な話を耳を傾けることを通し、「健康」や「平和」、「幸せ」などを相互に考える学びの時を持ちました。参加した高校生が

らは、「本やテレビ等で見聞きするが、実体験された先達から直接聴く話はリアリティがあり心を震わせ、心に突き刺さるようで、考えさせられるものがある」との声がありました。また、「このような機会はぜひ、今後も作ってほしい」との要望も出ました。

このプロジェクトは3ヶ年計画とし、来年は今年参加した高校生が主体となって、企画運営に携わり進めていくことを確認しました。高校生が自分たちのこととして未来を考え、また、高齢者が知識や経験を伝えることで次世代の若者を育てることができる活動が広がっていくことを願っています。



介護人材育成の取り組み ～ネットワーク型福祉社会を目指して～

いわま みきお
大阪YMCA中高齢者事業 スタッフ 岩間 幹雄



大阪YMCA国際専門学校教育社会福祉専門課程では、介護に携わる人材を日々育成しています。その中で、人はどんなタイミングでも成長する可能性を持っていることと、成長した後は後継者を育成する役割があることを伝えていきます。

仕事の成功が成長の体験そのものになるため、まさに介護の現場が人材育成の場であるといえます。私たちには、受講生一人ひとりの想いを受け、彼らが成長を実感できるように、それぞれのキャリア形成能力を育成するマネジメント力が求められています。

これを実現するために、介護の人材育成システムを体系化する一方、個々の受講生のもつ技能や技術については、キャリア・コンサル

ティングを通じてさらに向上に努め、問題解決力や応用力の高い人材を育成しています。また、受講生・講師・YMCAが連携して、受講生個々の自己啓発に努めながら、介護チームの強化に取り組みます。そして、新しい分野に臨む受講生の不安を自信へと導いています。YMCAの温かく、誠実な雰囲気は彼らを支えています。

受講生の多くは、「この仕事を選んで良かった」、「自分にとってやりがいのある仕事を見つけた」、「今までの経験が活かせる分野と分かった」、「YMCAに来て良かった」という実感を持ち、自分を見つめ直す機会を得てやりがいのある次のステップへと進んでいます。私たちは、「個」を尊び個人の努力や考え方も大切にまいります。



報告 ポジティブネットに向けて 第36回 聴覚障がい 青少年国際キャンプ

みやまえ
Yボランティアグループ HHリーダー会 宮前 こずえ

8月8日～13日、六甲山YMCAグローバルラーニングセンターにて、聴覚障がい青少年キャンプ(HHキャンプ)が開催されました。36回の歴史を誇る国際キャンプで、今年は大阪YMCAが9年ぶりに開催地となりました。海外からの参加YMCAは、マレーシア、香港、台北、ミャンマーでした。私たちHHキャンプリダー会は、海外の参加者たちに日本の魅力を余すところなく伝えたいと思い、様々な準備をしました。

そして迎えたキャンプ当日。2年前の香港開催のときに出会った懐かしい顔ぶれ、また初めて出会う人たちに少しの緊張がありました。ウエルカムパーティでいろいろなゲームをしていくうちに、徐々に打ち解けていく様子が見られました。2日目からはグループ別の行動となり、様々な「グループワーク」ゲーム、日本の夏の風物詩「流しソーメン」をはじめとする野外料理、花火、日本の最先端技術の見



学、デフターマパーク、大阪観光、振り返りなどと盛り沢山のプログラムを通して、絆を深めていきました。日本では当たり前なのが当たり前じゃない。当たり前がこんなにも素晴らしいことを再確認できたキャンプでした。キャンパーやリーダーたちも時には本音でぶつかり合うこともありましたが、ボランティアの皆さんやYMCAスタッフの支えもあり、いろいろ考えさせられ、学びの多かった6日間でした。最後はみんな笑顔で今後の再会を約束している様子が見られたのが、とても印象的でした。

今回は、来年の夏に台北YMCAで開催されることが決定しました。

このキャンプを支援してくださった、ワイズメンズクラブの皆様方。温かく見守ってくださった大阪YMCAのスタッフの方々。参加してくれたキャンパーの皆さん、ともに泣き笑ったリーダー会の仲間たちに心より感謝します。



●日本の文化紹介で「よさこいソーラン」を踊るキャンパーたち ●神戸のデフターマパークにて

一般財団法人日本宝くじ協会 助成物件寄贈ご報告

今年も、大阪YMCAに日本宝くじ協会から助成物件を寄贈いただきました。本年度はウエルネス事業やこども園事業はじめ、3拠点に5張の集会用テントと6拠点に14張の宿泊用テントを寄贈いただきました。日々のプログラムなど活動の場において、参加者が憩うことができるよう有効に活用させていただいております。感謝をもってご報告させていただきます。



大阪YMCA大会2016ご案内

日時 2016年11月23日(水・祝)
場所 大阪YMCA会館

■Yアクターフォーラム [10:00～12:00/9階 903号室]
～YMCAを再発見～

「大阪YMCAの使命」に示される未来像と世界が実現を目指す未来像を考える体験を通し、私たちの「今」と「これから」を再発見しましょう。

■Yアクション全体協議会 [正午～13:20/3階302号室]
各アクショングループの活動報告

■Yボランティアの集い [13:30～15:30/2階ホール]
会員表彰式・奨学金授与式・事業報告など

つながり広がる“Yの世界”

とさぼりサマーセミナー2016

とおむら はじめ
とさぼりサマーセミナー2016実行委員会 委員長 **大村 肇**

夏休み最初の日曜日の7月24日に、土佐堀会館にてクリスマス献金プログラムの「とさぼりサマーセミナー2016」を開催しました。1講座につき2時間、午前と午後で合計14講座を実施し、幼児、小学生、ウエルネス活動のメンバー、とさぼり保育園園児、Yボランティア、またその家族など、200名近くの地域の方々の参加がありました。科学系、クラフト系、料理教室、さをり織り、防災食体験など多彩なプログラムを行い、日常の家庭ではなかなかできないような、親子が共同作業で作品作りに取り組む姿は、ほほえましくもあり、夏休みの楽しい思い出になったと思います。外部の方による講座もありましたが、多くは、YMCAのスタッフや実行委員の方に講師を務めていただきました。

サマーセミナーは10年近く続いているプログラムですが、参加者からは来年も是非参加したいので続けてほしいとの要望があり、これからも引き続き新たな気持ちで実施したいと思います。



ロウソクを熱源とした
ボイラー船作りに
挑戦しました

サマーセミナー開始前、
ボランティアの方に
説明する大村さん

大阪YMCA早天祈禱会

YMCAを愛する人びとによって共に祈る時(毎月第3金曜日予定)が持たれています。YMCAの様々な場で活動されている方々にお話をいただき、人生の歩みを分かちあう恵みの時としています。

■第282回 日 時…2016年10月21日(金)7:30~8:30
証 し…大橋 昌美さん
(大阪YMCAエイジングセンター-国際文化センター 事業長)
場 所…大阪YMCA会館 10階 チャペル

問合せ 大阪YMCA 本部事務局 総務
【TEL】06(6441)0894 【E-mail】info@osakaymca.org

■ユースリーダー安全支援金寄付者ご協力に感謝申し上げます。

第2回報告(2016年8月度) 敬称略

- | | | | |
|---|---|---|--|
| 東里 裕子 飯田 雪子 池田 聡美 池田 博人 石橋 彩実 岩井 利早 上野 綾子 鵜崎 帆波 馬瀬 弥生 浦川 哲也 江上 恵子 大澤 亨輔 大島 佑香 大塚 由実 大西 和希 大橋 昌美 岡本 真美 岡本 泰宏 岡山 牧人 小川 明彦 狩野 直敏 河合 美保 菅田 斉 北方 千晶 北野 瑞季 北山 由真 公原 恵理子 桐原 拓 栗本 賀代子 栗田 瞳 高鶴 佳代子 | 高鶴 佐智子 小角 彩華 小島 フクミ 小島 明子 小寺 規久子 小西 菜々子 齊藤 壹 境 知春 坂田 楓花 佐古 利子 佐古 至弘 菅部 航一 笹島 智恵美 佐竹 博 佐藤 由紀 佐藤 真那 重信 直人 清水 真一 ジュゼッパ・フィーノ 正野 忠之 白井 春夫 白井 佑奈 泰地 絹代 高田 いずみ 高遠 光子 高橋 梨恵 高畑 清美 高畑 照代 武田 文男 武田 龍一 田尻 忠邦 | 立野 由美子 田中 章代 田中 和也 田中 有香 田中 惟介 丹吾 礼 辻井 豊昭 土屋 敦嗣 寺内 明美 土佐野 みどり 内藤 ますみ 長尾 総 中谷 憲人 仲原 成岳 新居 有紗 西川 翼 西田 拳一郎 新田 展子 野崎 沙織 登 淳英 野村 卓史 則武 秀尚 橋本 明美 橋本 健太郎 濱谷 楓香 林 博彦 早野 舞 福水 俊光 藤井 道雄 細川 直子 堀川 和彦 | 前田 彩実 柁田 ひかり 松川 晟可 松坂 佳江 松野 匡子 松本 祐香吏 水越 優子 三井 紗弥香 八木 和彦 山上 実海 山下 菜奈 山下 純平 横山 遼子 吉崎 房子 吉野 朱莉 鷺見 ちひろ 和田 榮理 Cornwell Steven Scott |
|---|---|---|--|

■会員・賛助会員としてのご協力に感謝申し上げます。

2016年8月度報告・敬称略

- | | | |
|---|---|---|
| 【新規会員】 東 奏美 齊藤 千晶 佐藤 歩美 四宮 朱莉 渡口 末莉子 豊成 哲也 西村 早織 三栖 亜里紗 三井 紗弥香 山本 さくら 吉住 香穂 吉永 誉 渡 千里 | 【継続会員】 上床 敦 上村 紗央里 大谷 智悠 城戸 亮史 栗原 弥生 神島 圭子 越野 滋明 澤飯 亜由美 中野 義彦 原 寛 前田 絵梨香 森田 果那 | 【継続賛助会員】 株式会社扇谷 社会福祉法人関西のちの電話 象印マホービン株式会社 株式会社テツタニ 延原倉庫株式会社 株式会社レンゴー建設 |
|---|---|---|

